

1 ex., ていだ広場付近, 18. VII. 2018, 金子採集・保管 (篩採集)。

国内からは沖縄島 (恩納村, 国頭村奥間), 海外においてはカタールにて生息が確認されている (越智, 2012; Bezdeck *et al.*, 2016; 小林, 2016)。渡名喜島からの記録は今回が初となる。本個体は海岸沿いの砂地に自生するグンバイヒルガオの根際の砂を篩うことにより採集された (図2)。この時, 多数のサキシマケシマグソコガネ *Psammodius kobayashii* Nomura, 1973 (46 exs.) とタイケシマグソコガネ *Rakovicus coreanus* (Kim, 1980) (10 exs.) も同時に採集されている。渡名喜島における分布は船の往来による沖縄島からの移入が示唆されたが, 既知の生息地と港の間に大きな隔たりがあることに加え, 港周辺には生息に好適な環境が存在しないことから, それは考えづらい。本種の分布様式には未だ不明な点が残されているため, 更なる記録の蓄積が望まれる。

文末ながら, 採集調査に同行すると共に, 採集風景の写真を提供していただいた大島千幸氏に感謝の意を述べる。また, 本種の同定にご助力いただいた益本仁雄氏, 木内信氏に心より御礼申し上げる。



図2. 採集地の環境 (大島千幸撮影)。

引用文献

- Bezděk, A., M. Dellacasa, G. Dellacasa, D. Král, M. Rakovič, S. Ziani, D. Ahrens, T. Branco, C. Zorn, & F.-T. Krell, 2016. Scarabaeidae. Pp. 97–412. In Löbl, I., & D. Löbl (eds.), Catalogue of Palaearctic Coleoptera, 3. xxviii + 983 pp. Brill, Leiden.
- 藤岡昌介, 2001. 日本産コガネムシ上科総目録. 293 pp. コガネムシ研究会, 東京.
- 井上暁生, 2013. 久米島および渡名喜島のケバカコフキコガネについて. 鯉角通信, (26): 16–17.
- Kaneko, N. & H. Shigetoh, 2019. Distributional records of scarabaeid beetles (Coleoptera, Scarabaeidae) from Tonaki-jima Is., the Okinawa Is., Southwestern Japan. Elytra, New Series, Tokyo, 9: 47–53.

- 金子直樹・吉武 啓, 2019. 沖縄県渡名喜島からのフチトリアツバコガネの記録. さやばねニューシリーズ, (33): 57–58.
- 小林修司, 2016. 砂浜海岸の砂篩でヒメヤマトケシマグソコガネを採集. 鯉角通信, (33): 76–77.
- Ochi, T., M. Kawahara, & M. Inagaki, 2006. Taxonomic notes on some Japanese coprophagous lamellicorn beetles (Coleoptera, Scarabaeoidea) VII. Description of two new taxa of Aphodiinae. Kogane, Tokyo, (7): 31–36.
- 越智輝雄, 2012. ヒメヤマトケシマグソコガネ属. Pp. 214. 岡島秀治・荒谷邦雄 (監修) 日本産コガネムシ上科標準図鑑, 444 pp., 学研, 東京.
- 岡島秀治・荒谷邦雄, 2012. 日本産コガネムシ上科標準図鑑. 444 pp., 学研, 東京.

(金子直樹 243–0034 厚木市船子 1737
東京農業大学昆虫学研究室)

【短報】大津波後に再確認された宮城県名取川河口からのギョウトクコミズギワゴミムシの記録

ギョウトクコミズギワゴミムシ *Paratychys gyotokuensis gyotokuensis* (Tanaka, 1956) は, 千葉県行徳の江戸川河口域から記載されたオサムシ科の微小甲虫である。河口部や湾内干潟の汽水域にみられる塩性湿地に生息する種で, 国内では本州 (北限は宮城県名取川), 四国 (田中・山崎, 1972; 森田, 1985), 九州 (西田, 1998) から見つかっている。国外からは, 別亜種が北朝鮮の大同江の河口部から知られる (Pawłowski, 1974)。

全国的にも生息確認地が少なく, 護岸工事, 海岸開発等により生息環境が圧迫されているとみなされていることから, 環境省の最新レッドデータブックには絶滅危惧Ⅱ類としての掲載があり (亀澤・丸



図1. ギョウトクコミズギワゴミムシ (宮城県名取川産, スケールは1 mm)。

山, 2015), 第4次レッドリストの2020年に改訂された版でも扱いは変更されていない。千葉, 神奈川, 宮城の各県版の最新レッドデータブックにも掲載されており(田尾, 2006; 斎藤, 2016; 山崎・宮内, 2011), 千葉県でのランクは最重要保護生物, 神奈川県では絶滅危惧I類, 宮城県では情報不足となっている。

筆者らは, 宮城県仙台市の名取川河口域の2地点において本種を確認しているので報告する。

1 ♀, 宮城県仙台市若林区種次沢目(名取川左岸), 24. VIII. 2019, 菅谷採集, 保管

約40 exs., 若林区藤塚下河原(名取川河口部), 24. VIII. 2019, 亀澤・菅谷採集, 保管。

同地域からは, すでに森田(1983)によって40年近く前に採集されて記録があるものの, 2011年の東日本大震災による大津波に見舞われた後には見つかっておらず, 震災後としては初めての確認となると思われる。

第1の確認地点は, 河口より約1.7 km上流の, 河岸に近接したヨシ原のただ中で, 大潮の満潮時には水没するためか, 近接した場所に浅い水たまりが存在していた。土壌は砂泥質であった。

第2の確認地点は, 名取川左岸河口部のヨシ原を後背地とした塩性湿地である。ヨシ原の河口の北側は防潮堤の建設が進んでいるが, 確認地点は比較的自然度の高い区画だった。カヤツリグサ科やヨシの群落中の砂泥地で, 半分埋まった人頭大からこぶし大の石を裏返すと, 田尾(2006)の指摘のように, 露出したカニの巣穴内部や石の裏面から成虫が確認された。また, 周囲に薄く堆積したヨシやカヤツリグサ科の枯草の下からも確認された。未成熟個体が多く含まれ, 中には体色が薄く, 羽化後あまり時間を経っていないと思われる個体も認められた。比較的高密度に生息している様子がうかがえたが, 確認範囲はそれほど広くはなく, 砂泥質の土壌が泥質, 砂質のいずれかに片寄りすぎると発見がむずかしくなる印象があった。適度に泥が混ざった砂地では1つの石裏から複数(2~4)個体が見つかることも少なくなかった。第2の確認地点に散乱していた石は河口部の工事由来と思われ, 石が存在していない自然状態では, 本種の生息を確認するのは容易ではなかったかもしれない。2つの確認地点に共通して, ごく少数のハマビズギワゴミムシ *Bembidion collutum semilutitum* Bates, 1883 が同所的に確認された。この種も, 森田(1983)による同地域からの既記録がある。



図2. 本種が確認されたヨシ群落内の地表の様子(名取川河口部から約1.7 kmの第1の確認地点)。



図3. 第2の確認地点の環境(名取川河口部)。



図4. 石を裏返してカニの巣穴を露出させた状態。

末筆ながら, 本種の九州における記録についてご教示くださった今坂正一氏(久留米市), 問合せに応じてくださった伊東善之氏(高知市)と森田誠司氏(東京都), 文献入手に手を貸してくださった中村涼氏(千葉県), 植物について教えてくださった安藤伸彦氏((株)環境指標生物)に心からお礼申し上げます。

引用文献

- 亀澤 洋・丸山宗利, 2015. ギョウトクコミズギワゴミムシ・レッドデータブック 2014—日本の絶滅のおそれのある野生生物—5 昆虫類, p. 231, ぎょうせい.
- 森田誠司, 1983. 宮城県名取川のミズギワゴミムシ類 (ミズギワゴミムシ分布資料 3). 甲虫ニュース, (61): 5.
- 森田誠司, 1985. ミズギワゴミムシ亜科. 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝 (編著), 原色日本甲虫図鑑 II, pp. 88–102, pls. 17–19, 保育社.
- 西田光康, 1998. 佐賀県西部の河口付近で得られた甲虫. 佐賀の昆虫, (32): 71–78.
- Pawłowski, J., 1974. Tachyini (Coleoptera, Carabidae) of North Korea. Acta Zoologica Cracoviensia, 19 (9): 155–196.
- 斎藤勝雄, 2016. ギョウトクコミズギワゴミムシ. 宮城県の絶滅のおそれのある野生動物, p. 333, 宮城県.
- Tanaka, K., 1956. Notes on some species of the genera *Tachys* and *Tachyura* from Japan and the Loochoo Islands (Coleoptera, Carabidae). Kontyû, 24 (4): 207–211.
- 田中和夫・山崎秀雄, 1972. 千葉県北部の鞘翅目第2報 (ゴミムシ科). 千葉県動物誌基礎資料, (11): 48–69.
- 田尾美野留, 2006. ゴミムシ類. 高桑正敏・勝山輝男・木場英久 (編), 神奈川県レッドデータブック生物調査報告書 2006, pp. 369–383.
- 山崎秀雄・宮内博至, 2011. ギョウトクコミズギワゴミムシ. 千葉県の保護上重要な野生動物—千葉県レッドデータブック—動物編, p. 272, 千葉県.

(亀澤 洋 (株) 環境指標生物)
(菅谷和希 (株) 環境指標生物)

【短報】キマダラチビカクウムシの西限記録

キマダラチビカクウムシ *Isoclerus* (*Isoclerus*) *pictus* Lewis, 1892 は, かつてヨツモンチビカクウムシとの和名で国内から知られていた (宮武, 1985). *I. (I.) pictus* の原記載者である Lewis は, 本種の上翅には2型が存在することを把握しており, 色彩変異として扱っていた (Lewis, 1892). しかし, 本稿第二著者の村上が日本および台湾産 *Isoclerus*



図1. 石川県産キマダラチビカクウムシ.

属3種を再検討した結果, 本種のシントタイプには2種が混在し, 1つは本種, もう1種はタイワンチビカクウムシ *I. (I.) disinlei* Kolibáč, 1992 の色彩変異であることが判明した (Murakami, 2019). すなわち, 宮武 (1985) が本種として図示していたものは, 実はタイワンチビカクウムシの色彩変異であったこと

から, Murakami (2019) によって本種にキマダラチビカクウムシとの新しい和名が与えられた. これ以上の混乱を避けるため, Murakami (2019) は今後ヨツモンチビカクウムシとの和名を使わないことを提唱している.

これまでに知られているキマダラチビカクウムシの分布記録は北海道, 本州 (青森, 栃木, 神奈川, 山梨) であった. 筆者らは本種の西限記録および石川県初記録となる個体を採集したので, 本稿にて報告する.

報告に先立ち, 採集にご同行いただいた石川県ふれあい昆虫館の福富宏和氏に御礼申し上げる.

1 ex., 白山市桑島 大嵐山, 17. VII. 2019, 渡部採集・保管 (図1).

ブナの倒木の表面に生えたキノコ (種不明) より採集されたが, 確認されたのは1頭のみであり, 再現性のある採集事例かどうかは不明である.

引用文献

- Lewis, G., 1892. On the Cleridae in Japan. Annals and Magazine of Natural History, (6) 10: 183–192.
- 宮武陸夫, 1985. カクウムシ科 Cleridae, pp. 151–161, pl. 24–25. 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之編, 原色日本甲虫図鑑 III. 保育社, 大阪.
- Murakami, H., 2019. Review of the genus *Isoclerus* Lewis, 1892 (Coleoptera, Thaneroceridae) from Japan and Taiwan. Elytra, Tokyo, New Series, 9: 337–347.

(渡部晃平 920–2113 白山市八幡町戊3番地

石川県ふれあい昆虫館)

(村上広将 790–8566 松山市樽味3–5–7

愛媛大学農学部環境昆虫学研究室)

【短報】コブアナアキゾウムシの西表島からの記録

コブアナアキゾウムシ *Pimelocerus pustulatus* (Kôno, 1932) (ゾウムシ科アナアキゾウムシ亜科) は, 台湾・霧社産の1雌に基づき記載された種で, これまでに生態的知見が得られていない比較的大形で珍種のアナアキゾウムシである. 国内からはめ場 (1983) により, はじめて石垣島と西表島から記録されているが, その後の追加記録は筆者らが調べた限りでは見当たらない.

筆者の一人加藤は最近, 西表島において本種を採集しているので, 同島から2例目の記録として, ここに報告する.

1 ex., 西表島上原テドウ山, 1. XII. 2019, 加藤大樹